

# 私にとって「教学」とは何か

私たちは日頃どのように学んでいるでしょうか。お聖教やそれに関連する本などを開いて、何をそこから学んでいるでしょうか。

かつて真宗学の学びについて金子大榮氏が、生死の「一大事の解決に向かって進むところに、真宗学の意義」があり、「これからの真宗学というものは、親鸞聖人の著述を研究するのは真宗学でなくして、親鸞聖人の学び方を学ぶのが真宗学である」(『真宗学序説』)と述べたことは、今の私たちにとっても確認されなければならないことだと思います。

また、昨年の講義で学びの姿勢について名和さんより、教えの歴史や人との出遇いをただいたずらに賛美するのであれば、それは権威となり、また良いか悪いかの二極化に基づく全体主義へと繋がる危険性があり、一人一人が、どのような思いがそこにあり、具体的なすがたとなっているのかを尋ねることが大切だと教えていただきました。

これらを踏まえつつ、今年は「私にとって「教学」とは何か」のもとで一緒に考えたいと思います。

皆さまのお越しをお待ちしております。一緒に学びましょう。

【期 日】 2018年4月16日(月)

【講 師】 <sup>なわ たつのり</sup> 名和 達宣 さん  
(教学研究所研究員)

【場 所】 富山東別院会館  
1F 研修ホール

【参加費】 500円

【持参品】 筆記用具・念珠

※なお、日程終了後に懇親会を開きます。

ご参加の方は別途お願いします。



～講師のご紹介～

<sup>なわ たつのり</sup>  
名和 達宣

大阪大学文学部(倫理学専修)卒業。大谷大学大学院文学研究科(真宗学専攻)修士課程修了。真宗大谷派宗務所教育部学校教育幹事、親鸞仏教センター研究員を経て、現在、教学研究所研究員。親鸞教学の視座より日本近代思想史を研究。

主な論文に「『臘扇記』を読む——清沢満之における転換期」(『現代と親鸞』第33号、2016年)、「西田哲学と親鸞教学——「逆対応」の可能性」(『西田哲学会年報』第12号、2015年)など。

日 程	
受 付	13:30
開 式	13:45
講 義	14:00～休憩 ～16:30
質疑応答	16:30
閉 式	17:00

主催：富山教区仏教青年会

連絡先：代表 淵上知明(第12組本伝寺) (090-2129-1759)